

まえがき

中国と日本の協力によって培われてきた、北京日本学研究中心は、第3次5か年計画も2年目に入り、本格的に実を結ぶべき時期を迎えている。ここに新たな優秀修士論文を発表できることは、私たちとしても喜ばしいことである。本センターの学生は、中国各大学の日本語学科卒業生がほとんどで、そこから選ばれた秀才であり、みっちり語学教育を仕込まれているため、日本語の力がかなり充実していることは、センターに赴任された日本側教官が誰しも認めるところである。ただし、学部では専門教育の訓練を受けていないため、学問的な技術や方法論は、進学してから身に着けていったと言ってよい。その点を考慮すれば、まだまだ未熟な所は多いものの、ここに集められた成果は、学生諸氏のたゆまぬ研鑽努力の賜物と言ってよいであろう。

本誌は大学院第9期生の修生論文の中から、優れたものを6編選んで掲載している。さらに優れた2編の論文は、「日本学研究7」に掲載される予定である。本誌には、このほか、投稿された論文3編と第10期日本語教師研修コースの小論文のうち優れたものを6編載せた。いずれも、センターの教官に審査を依頼し、最終的に編集委員会で掲載を決定したものである。これからも本誌が、若い日本学研究者の切磋琢磨の場となることを期待するとともに、これらの若い芽がさらにつぎの世代の花と果実として育つことを念じて止まない。

北京日本学センター編集委員会

1997年1月13日